HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | アイヌ語鵡川方言テキスト(3) : シナ皮剥ぎの思い出 |
| Author(s) | 岸本, 宜久 |
| Citation | 北方言語研究, 16, 239-264 |
| Issue Date | 2026-03-20 |
| DOI | https://doi.org/10.14943/2115.99352 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/99352 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | 13_Kishimoto.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北方言語研究 16: 239-264（日本北方言語学会 2026）

［資料・研究ノート］

# アイヌ語鵡川方言テキスト（3）
## ―シナ皮剥ぎの思い出[1]―

岸 本　宜 久
（札幌学院大学）

キーワード：アイヌ語、鵡川方言、テキスト

## 1. はじめに

本稿では、アイヌ語鵡川方言の話者である吉村冬子氏から筆者が採録したシナノキの樹皮（シナ皮）剥ぎにかんする思い出の語り 2 編を紹介する。日本語を第一言語とする世代の継承語としてのアイヌ語の資料と位置づけられる。なお、付録としてテキストの音声資料を公開する。

### 1.1 本テキストの話者について

本テキストの話者である吉村冬子氏（1926 – 2022、写真 1 参照）は、北海道胆振東部を流れる鵡川河口の村、チン（現むかわ町汐見、図 1 参照）で生まれ育った女性である。アイヌ語と日本語のバイリンガルである両親と 17 歳までともに暮らし、両親のアイヌ語や、特に母親の交友関係の中でアイヌ語に深く接して育ったという。吉村氏の言語的背景と略歴については岸本（2024）で紹介しているため、そちらを参照されたい。

写真 1　吉村冬子氏（2014 年、筆者撮影）

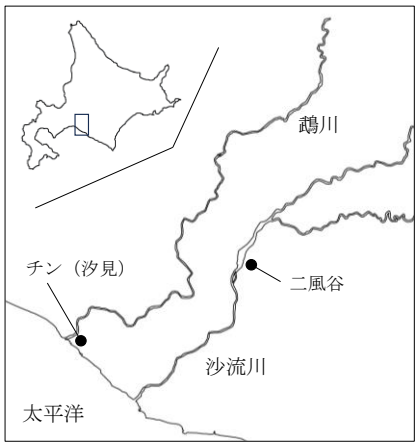


図 1　チン（汐見）の位置

### 1.2 本テキストの採録と特徴

本稿の 2 編のテキストは、吉村氏が 14～15 歳のころ（1940 年ころ）に隣近所のおじさん、

[1] 副題は本テキストのテーマに基づいて筆者が付けたものである。なお、本稿は「アイヌ語鵡川方言テキスト」と題して岸本（2024）、岸本（2025）に続けて公開する吉村氏の談話資料の一部である。

おばさんたちと泊まりがけでシナノキの樹皮（シナ皮）を剥ぎに行った際の忘れがたい思い出を語ったものである。2014 年 9 月 20 日（第 58 回調査）に採録した談話資料をテキスト 1、2014 年 10 月 4 日（第 59 回調査）に採録した談話資料をテキスト 2 とする。いずれもむかわ町汐見の吉村氏宅で語っていただき、デジタル IC レコーダーとデジタルビデオカメラによる記録を行った。シナ皮は糸や縄の材料として利用され、吉村氏は当時、母親がシナ糸で編んだ茣蓙や父親が綯ったシナ縄を売って生計の足しにしていたという。シナ皮剥ぎの思い出は、大きく以下のエピソードで構成されている。

① 生活のために山へ行ってシナ皮をたくさん採った
② 山の中で夕食をとろうとしたら大量の虫が空から降ってきた
③ 翌日も山の中でシナ皮をたくさん採った
④ 山の所有者に見つかり、シナ皮も鉈もすべて取り上げられた
⑤ 家に帰ると母が泣いて私を抱きしめた
⑥ 生活のためにまた山へ行ってシナ皮をたくさん採った
⑦ 無事に帰ると母が私の手を取って迎えた
⑧ しばらくして役場に呼び出され、注意を受けて鉈を返してもらった

このうち、テキスト 1 は①②③④⑤⑧の流れ、テキスト 2 は①④⑤①②③④⑤⑥⑦⑧の流れでエピソードが展開されている。同じ思い出を語っているが、テキスト 2 では、まず①④⑤のエピソードが語られている。その後、一連の思い出として、あらためて①から順にエピソードが語りなおされており、⑤のエピソード以降も生活のために山へシナ皮を採りに行ったことが語られている。なお、テキスト 1、2 ともに⑧以降は主に日本語での語りとなるが、シナ皮で生計を立てていた吉村氏の当時の生活の様子や心情を知る貴重な証言であるため、テキストとして最後まで示している。

吉村氏によるシナ皮剥ぎの思い出話は、1998 年 2 月に北海道北見市で開催された第 1 回アイヌ語弁論大会（イタカンロー）でも「クヤイ　オモッテ　イタク（私が体験した話）」と題して吉村氏によってアイヌ語で語られている[2]。「クヤイ　オモッテ　イタク（私が体験した話）」のあらすじは、前述の①②のエピソードを中心としたもので、本稿の 2 編のテキストとあわせて、同一の話者による語りのバリエーションを比較できる資料として興味深い。イタカンローで語った経験は、後年に至るまで吉村氏がアイヌ語で「シナ皮剥ぎの思い出」を語る上での下敷きになっていると考えられる[3]。

その一方で、イタカンローで語った①②のエピソードについて、テキスト 1、2 では「山へ行った日の昼食」「夕食を喜んだ理由」、③以降のエピソードなど、アイヌ語をベースによ

[2] 同大会ではこの話を含めて 2 編の思い出話をアイヌ語で語った吉村氏が最優秀賞を受賞しており、そのテキストはアイヌ文化振興・研究推進機構（1998）に掲載されている。なお、同大会で吉村氏が語ったもう 1 編の「クコロ　ウパシクマ（若い人に伝える話）」のエピソードは、岸本（2025）を参照されたい。

[3] イタカンローのテキスト全体は紙幅の都合で本稿に掲載していないが、テキスト 1 の①②のエピソードをもとに、イタカンローのテキストと異なる表現をしている箇所や日本語で語られている箇所については、脚注でイタカンローの表現を示す。なお、イタカンローのテキストはカタカナ表記であるため、本稿テキストとの対照の便宜上、引用に際してはローマ字表記に書き換えて示す。

り詳細な場面・心情の描写が語られている。吉村氏はテキスト 2 を語り終えた直後、「あんまり長くて、ところどころアイヌ語入れたり、シャモ語（日本語）入れたけど、とっても全部いっぺんにアイヌ語なんかできないから」と述べているが、テキスト 1、2 ともに 15 分以上にわたって文中、文間を問わずアイヌ語と日本語を自然に交替させながら語っており、2010 年代以降に採録された日本語を第一言語とするアイヌ語の継承語話者（日本語・アイヌ語バイリンガル）の言語使用の実例として貴重な資料といえる。

## 2. 表記について

本稿のテキストは 3 行構成で示す。1 行目はアイヌ語の音韻表記による原文、2 行目はグロス、3 行目は日本語訳である。日本語訳は暫定的なものである。アイヌ語の音韻表記は、服部（1964）で示されている音韻解釈に基づき子音/p, t, k, c, s, m ,n , r, w, y, h/、母音/i, e, a, o, u/を用いて記した。ただし、声門閉鎖音を表す音素/’/は、一部を除き表記を省略した。言い誤り、言い淀み、フィラーと思われる要素には「..」を付した。日本語での発話箇所は訓令式のローマ字でつづり、斜体・下線を付して示している。日本語での発話箇所の 2 行目には分析的なグロスは付さず、1 行目と同文の書き起こしを示している。また、3 行目では標準的な日本語に書き換えている。不明点、今後の検討が必要な点は脚注に示す。

## 3. アイヌ語鵡川方言テキスト：シナ皮剥ぎの思い出

### 3.1 あらすじ

隣近所のおじさん、おばさんたちとシナ皮を剥ぎに泊りがけで山へ行った。シナ皮を採っているうちに暗くなってきたので、支度をしてみんなで夕食をとろうとしたとき、鳥が私たちの焚火の上を旋回してどこかへ飛んでいった。不思議に思った直後、大量の虫がまるで雨のように空から降り注ぎ、せっかく作った夕食がすべてだめになってしまった。翌日も山の中でシナ皮を採ってあるき、たくさんのシナ皮を背負ってみんなで山を下りていたところ、山の所有者に見つかってしまい、シナ皮も鉈（ナタ）もすべて取り上げられてしまった。散々な思いをして家に帰り着き、山での出来事を母に話すと、母は私の苦労を思って泣いて抱きしめてくれた。しばらくして役場から呼び出されたので行ってみると、他人の山に無断で入ってはいけないと注意されて、鉈を返してもらった。そうはいっても、シナ皮を採らないと生計を立てられない。私が子どものころは生活のために多くの苦労をしたものだ。

### 3.1.1 テキスト 1

採録日：2014 年 9 月 20 日
テキスト収録時間：16 分 24 秒

(1) ekimne arpa wa cikuni hunara an.. kor oyakoyak un apkas wa
山へ 行く て 木 探す # ながら あちこち へ 歩く て
山へ行って木を探しながらあちこちへ歩いて

(2) *yatto*, nipesni.. nipesni a.. *anto*.. *oboeteta kotoba mo wasuretyatta*
やっと # シナノキ # # 覚えてた 言葉 も 忘れちゃった

やっとシナノキを、えっと、覚えてた言葉も忘れちゃった

(3) nipesni an wa oro ta ku=se *nimotu* ranke wa
シナノキ ある/いる て そこ に 1SG.A=背負う 荷物 下ろす て
*sassoku* nipesni or un ko.. ku.. ku=terke[4] wa
さっそく シナノキ ところ へ # # 1SG.A=飛びつく(?) て
シナノキがあって、そこに私が背負っていた荷物を下ろして、さっそくシナノキに飛びついて

(4) pewre nipesni ne kusu earkinne *mukiyasui*, k=eyaykopuntek kor
若い シナノキ COP から 本当に 剝きやすい 1SG.A=喜ぶ て
poronno ku=kar
たくさん 1SG.A=採る
若いシナノキだから本当に剥きやすい、私は喜びながらたくさん採った

(5) hine cuwan ne an kusu ipe=an ro sekor hawas wa
そして 昼飯 に なる から 食べる=1PL.S.INCL FP QUOT 声がする て
そして、昼になるから食べましょうという声が聞こえて

(6) *minna katamatte ohiru no* ipe okere wa suy nipesni ko-terke kusu
みんなかたまってお昼の 食事 終わる て また シナノキ APPL-飛びつく ので
*yama sa hairu*
山さ入る
みんなで集まって昼食をおえて、またシナノキに飛びつくために山へ入る

(7) *sono hi wa kimoti ii hodo* nipes kep wa k=eyaykopuntek
その日は気持ち良いほど シナ皮 剥ぐ て 1SG.A=喜ぶ
その日は気持ちがいいほどシナ皮を剥いで嬉しくなった

(8) akusu “onuman ne an kusu aep *sitaku sinaiba nannai kara*, *omae mo itte*
すると 夜 に なる から 食べ物 支度しないばなんないから お前も行って
eani *mo itte* ikasuy *se*” sekor acapo hawean wa suke kusu
2SG.PRON も行って 手伝う せ QUOT おじさん 言う て 炊事する ため
ikasuy kor an[5]
手伝う て いる/ある
すると、「夜になるから食事の支度をしなくてはならない、お前も行って手伝いなさい」とおじさんが言うので、炊事のため手伝っていた

(9) kani anakne *mesitte yuu mono nanka* a=e *sita koto mo nai* *sore koso*
1SG.PRON TOP 飯ってゆうものなんか 4.A=食べる したこともない それこそ

[4] 「ku=terke（私が跳ねる）」では、文脈上いまひとつ意味がつかめない。(6) では「nipesni ko-terke（シナノキに飛びつく）」と表現しており、ここも「ko-terke（〜に飛びつく）」の可能性がある。ただし、「シナノキに飛びつく」という言い回しがどのような意味を表すかは、引き続き検討していきたい。

[5] テキスト 1、2 では、一緒に山へ行った人々について「acapo（おじさん）」「unarpe（おばさん）」と表現しているが、イタカンローのテキストではそれぞれ「ku=yupo」「ku=sapo」と表現している。イタカンローのテキストの日本語訳では「おじさん」「おばさん」とあるが、「ku=yupo」は「兄さん」、「ku=sapo」は「姉さん」という意味になる（アイヌ文化振興・研究推進機構 1998）。

wenkur ne kusu sayo patek k=e wa poro pe ne kusu
貧乏人 COP ので 粥 ばかり 1SG.A=食べる て 大きくなる NMLZ COP ので
私はお米のごはんというものは食べることもない貧乏人だったので、お粥ばかり食べて大きくなったものなので

(10)te ta an yak.. te ta amam suwe yakun sayo somo ki[6]
ここ で いる/ある # ここ で 米 炊く なら 粥 NEG する
mesi ne an wa k=eyaykopuntek
飯 に なる て 1SG.A=喜ぶ
ここでお米を炊くならば、お粥ではなくお米のごはんになるから嬉しい

(11)*mezurasii* aep k=e rusuy kor an am.. a=e
珍しい 食べ物 1SG.A=食べる DESID て いる/ある # 4.A=食べる
hawe ne sekor ha.. yay.. ku=yaynu kor
NMLZ COP QUOT # # 1SG.S=思う て
珍しい食べ物を食べたくて、食べるんだと思って

(12)tane *moo* sirkunne ka ape ari, poro ape ari ki p ne kusu
今 もう 暗くなる も 火 焚く 大きい 火 焚く する NMLZ COP から
*mawari wa akarui*
周りは明るい
もう暗くなったけども、大きな火を焚いているものだから周囲は明るい

(13)*sosite*, *minna de tyawan ni irete moratte tabeyooto sita toki ni*
そして みんなで茶碗に入れてもらって食べようとしたときに
そして、ごはんを茶碗に入れてもらってみんなで食べようとしたときに

(14)hemanta cikap ape sam ape.. ape *ue*, *unto*.. ape eka..es.. *unto* *nantake na*
何 鳥 火 そば # 火 上 # 火 # # # なんたけな
何か鳥が、火のそば、火の上、なんだっけな

(15)*hi no ue kara ni kai gurai gurugurutto mawari nagara*, *ano*, *nakinagara ni kai gurai mawatte*
火の上から二回ぐらいぐるぐるっと回りながら # 鳴きながら二回ぐらい回って
hinak un ka arpa
どこ へ か 行く
火の上で二回ほどぐるぐる回りながら鳴いてどこかへ行った[7]

---

[6] 「お粥ではない」という名詞述語の否定では、「sayo somo ne（sayo 粥、somo NEG、ne COP）」のようなコピュラ動詞の否定表現が予期されるが、ここでは「sayo somo ki（sayo 粥、somo NEG、ki する）」という動詞述語の否定表現となっている。偶発的な言い誤りであるのか、あるいは吉村氏のアイヌ語の特徴であるのかについては今後も検討を続ける。また、本稿査読者から「ここで米を炊くなら、粥はつくらない。飯米になる…」を意味している可能性はないか」とのご指摘をいただいた。貴重なご指摘に感謝し、今後、検討したい。

[7] イタカンローのテキストでは当該箇所を「hemanta cikap ape en=kasike ta otu suy re suy cis kor maw na（hemanta 何、cikap 鳥、ape 火、en=kasike 1SG.O=上、ta に、otu 二、suy 回、re 三、suy 回、cis なく、kor ながら、maw 飛ぶ?、na ぞ）」「なにか鳥が火の上に何回も何回も泣きながら飛び回る」と表現している（アイヌ文化振興・研究推進機構 1998）。

(16)hemanta cikap ene sirkunnean pe ek ruwe sekor ku=yaynu kor
何 鳥 こう 暗くなる NMLZ 来る INFR.EV QUOT 1SG.S=思う て
an akusu
いる/ある と
何の鳥がこのようにあたりが暗いのに来たもんだと思っていると

(17)aep *minna* ao.. oypepi oro omare wa un=kore wa k=eyaykopuntek
食べ物 みんな # 茶碗 中 入れる て 1PL.O=くれる て 1SG.A=喜ぶ
wa poronno a=e yakun sekor ku=yaynu kor an akusu
て たくさん 4.A=食べる なら QUOT 1SG.S=思う て いる/ある と
食べ物をみんな茶碗に入れてもらって、喜んでたくさん食べようと思っていたのに

(18)ne cikap hinak un ka arpa okake ta
その 鳥 どこ へ か 行く 後 に
その鳥がどこかへ行った後に

(19)*sugu* hemanta kikir apto ruy siri neno *watasidati iru* eka.. e.. eka..
すぐ 何 虫 雨 激しい VIS.EV 同じく 私だちいる # # #
*ue ni ni san kai, ni, san kai mo go rok kai mo ame huru mitaini*
上に二、三回も五、六回も雨が激しく降るみたいに
すぐに何か虫が、私たちのいる上に、二、三回も五、六回も雨が激しく降るみたいに

(20)apto ruy *suru mitai ni tonde kite ki no happa ni mo arare ga otite*
雨 激しい するみたいに飛んできて木の葉っぱにもあられが落ちて
*oto o suru kurai no oto o tate nagara nanman biki ka no musi ga tonde kite*
音をするくらいの音を立てながら何万匹かの虫が飛んできて
雨が激しく降るみたいに飛んできて、木の葉っぱにも霰が音を立てて落ちるかのように
何万匹かの虫が飛んできて

(21)*ima tabeyoo to site ita tyawan yara* oypepi, oypepi *yara* su oro ka
今食べようとしていた茶碗やら 茶碗 茶碗 やら 鍋 中 も
ne kikir oma wa a=e ka eaykap
その 虫 入る て 4.A=食べる も できない
いま食べようとしていた茶碗や鍋の中にもその虫が入ってしまい食べられない[8]

(22)*sekkaku* pirka aep a=e.. *taberareru ka to omotte* k=eyaykopuntek a p
せっかく 良い 食べ物 # 食べられるかと思って 1SG.A=喜ぶ PERF NMLZ

[8] イタカンローのテキストでは、この虫を「rapkorkikir（rap 羽、kor 持つ、kikir 虫）」「羽のもつあり（原文ママ）」と表現している。また、当該箇所を「cikuni ham ka ta ka rapapse humihi ka a=nu pakno rapkorkikir apto ruy siri neno rapapse / su or un ka a=oypep or un ka kikir oma wa ipe ka eaykap（cikuni 立ち木、ham 葉、ka 上、ta に、ka も、rapapse 落ちる、hum-ihi 音-POSS、ka も、a=nu 4.A=聞く、pakno ほど、rapkorkikir 羽をもつ虫、apto 雨、ruy 激しい、siri 様子、neno 同じく、rapapse 落ちる／su 鍋、or ところ、un へ、ka も、a=oypep 4.(A)=茶碗、or ところ、un へ、ka も、kikir 虫、oma 入る、wa て、ipe 食べる、ka も、eaykap できない）」「立ち木の葉っぱにもこぼれる音が聞こえるまで羽のもつありが雨のごとくこぼれる／鍋のなかやおわんの中にその虫が入る」とアイヌ語で表現している（アイヌ文化振興・研究推進機構 1998）。

ene an wa ipe ka eaykap
こう ある/いる て 食べる も できない
せっかくすばらしい食べ物を食べられると思って喜んでいたのに、こういうことがあって食べることもできない

(23)*minna tyawan sita sa oite doo suru koto mo dekinaide* *sono ban wa*
みんな茶碗下さ置いてどうすることもできないで その晩は
*moo* *doo*.. *doo suru koto mo dekinaisi* ipe *mo* somo ki no
もう # どうすることもできないし 食べる も NEG する て
みんな茶碗を下に置いて、その晩はもうどうすることもできないし、食べもしないで

(24)*nabe sa hairu tyawan sa hairu musi nekatte kuu koto mo dekinai*
鍋さ入る茶碗さ入る虫ねかって食うこともできない
*doo suru koto mo dekinakute* *minna bangohan yamete* *sosite katazuketetakke* *ato*..
どうすることもできなくて みんな晩ごはんやめて そして片付けてたっけ #
鍋にも茶碗にも入る虫のせいで食べることもできない、どうすることもできなくて、みんな夕食をやめて片づけをしていたら

(25)“hokke[9] ka na *hayai*” sekor acapo hawean kor ukoysa..
寝る も まだ 早い QUOT おじさん 言う て #
u-ko-isoytak kor oka=an akusu acapo ene hawean
互い-APPL-話す て いる/ある=1PL.S.INCL と おじさん こう 言う
「寝るにもまだ早い」とおじさんが言って、お互いにいろいろな話をしていると、おじさんがこう言った

(26)“nisatta ne yakun suy sinki=an pakno moymoyke *sinaiba nai kara*
明日 になる なら また 疲れる=1PL.S.INCL ほど 動く しないばないから
ecioka anakne hokure yan[10] hopuni kor an yakka aep ka
2PL.PRON TOP 早く IMP.FP 起きる て いる/ある ても 食べ物 も
isam wa *doo suru koto mo dekinai*
ない て どうすることもできない
「明日になったらまた疲れるほど動かなければならないから、お前たちは早く寝なさい。起きていても食べる物もなくてどうすることもできない

(27)kani anakne eci.. ecioka epunkine kusu ape uska eaykap wa
1SG.PRON TOP # 2PL.PRON 守る から 火 消す できない て
ape ruy.. ape ruy hi eanioka[11] epunkine kusu ku=hokke ka nukuri
火 # 火 激しい NMLZ 2PL.PRON 守る から 1SG.S=寝る も できない

[9] 田村（1996:205）によると「hotke（寝る）」は「東部方言で hokke ホッケと発音されるが、沙流・鵡川ほか広い地域では hotke ホッケの「ッ」は t であり、つまる音ではない。ホッケのように発音する」という。一方、吉村氏の発話は基本的に[hokke]であるため、「hokke（寝る）」と表記している。
[10] 本来は「hokure（早く）」と「yan（IMP.FP）」の間に動詞が入って「早く～なさい」という命令文となる。
[11] 「eani.. oka」と少し詰まったように発話している。前後の文脈上「ecioka（2PL.PRON）」と言うべきところを「eani（2SG.PRON）」と表現してしまったため、途中で訂正した言い誤りと考えられる。

wa ku=hopuni kor ape ari wa ecioka *o banpe suru kara*
て 1SG.S=起きる て 火 焚く て 2PL.PRON をばんぺ（番兵）するから
私はお前たちの番をするのに火を消すこともできなくて、火が激しく燃えるときは、お前たちを守るために寝ることもできないから、私が起きて火を焚いてお前たちを見張るから

(28)nisatta suy ekimne paye kusu ne na hokke yan" sekor hawean
明日 また 山へ 行く ため COP FP 寝る IMP.FP QUOT 言う
明日はまた山へ行くつもりだから寝なさい」と（おじさんが）言った

(29)*sono toki yo nin de ittan da ne* *onna san nin*, *wati irete onnna san nin*
そのとき四人で行ったんだね 女三人 わち入れて女性三人
そのときは四人で行ったんだね、私を入れて女は三人

(30)*sosite sono* acapo *yuu mon da kara* *kondo*[12], *hutari wa onazi tosi gurai da kara*
そしてその おじさん ゆうもんだから こんど 二人は同じ年ぐらいだから
*ano*.. *otagai ni nete ite mo hanasi sinagara neteru*
# お互いに寝ていても話ししながら寝てる
そしてそのおじさんが言うものだから、女性二人は同じ年代くらいなのでお互いに話しながら横になっている

(31)*wati wa sono yoko de hitori de* "*yaa bakakusai*, *sekkakudanoni*" *to omotte* nipes *wa*
わちはその横で一人で やぁばかくさい せっかくだのにと思って シナ皮 は
*takusan ii* nipes *wa* *takusan tottan dakedo mo* aep *sore koso* isam wa
たくさん良い シナ皮 は たくさん採ったんだけども 食べ物 それこそ ない て
私はその横で「やぁ、ばかくさい、せっかくなのに」と思って、良いシナ皮はたくさん採ったのだけれども、食べる物はまったくなくて

(32)*honto ni mottainai nasakenai to omoinagara* ku=hokke korka kani anakne
ほんとにもったいない情けないと思いながら 1SG.S=寝る けれど 1SG.PRON TOP
pewre p ne kusu nani ku=mokor
若い NMLZ COP から すぐ 1SG.S=眠る
本当にもったいない、情けないと思いながら横になったけれど、私は若かったのですぐに眠った

(33)unarpe utar anakne nep ka isoytak kor an siri ku=nu kor
おばさん たち TOP 何 か 話す て いる/ある VIS.EV 1SG.A=聞く て
kani anakne ku=mokor wa *me ga samete mitakke moo akaruku natte ita mon da kara*
1SG.PRON TOP 1SG.S=眠る て 目が覚めて見たっけもう明るくなっていたもんだから
*mata sono hi* nipesni hunara wa nipes kep
またその日 シナノキ 探す て シナ皮 剥ぐ
おばさんたちが何か話しているのを聴きながら私は眠って、目が覚めたらすでに明るく

[12] 田村（1996:328）によると日本語の「こんど（今度）」からの借用と考えられるアイヌ語の副詞「konto」は、「『それから』のようなつなぎ言葉として会話の中や民話を語っている中でしばしば時をかせぐために使われる」という。吉村氏の談話でもつなぎ言葉のような用法の「こんど」がしばしば現れる。

なっていたものだから、その日はまたシナノキを探してシナ皮を剥いだ

(34)*asa wa nan demo nakatta kara* aep kar wa poronno e wa
朝は何でもなかったから 食べ物 作る て たくさん 食べる て
k=eyaykopuntek korka suy nipesni hunara wa nipes kar kor
1SG.A=喜ぶ けれど また シナノキ 探す て シナ皮 採る て
k=an akusu
1SG.S=いる/ある と
朝は何でもなかったから、食べ物を作ってたくさん食べて嬉しかったけど、またシナノキを探してシナ皮を採っていると

(35)suy *ohiru da karatte yutte* kuneywa, ipe.. ipe.. ipe.. ipe.. kuneywaipe
また お昼だからってゆって 朝 # # # # 朝食
aep suy an pe ne kusu *sore* cuwan ne *wakete* a=e
食べ物 また ある/いる NMLZ COP から それ 昼飯 に わけて 4.A=食べる
またお昼だからっていって朝食の食べ物があるので、それを昼食に分けて食べた

(36)oro wa suy *mata* nipes kep wa tanukuran anakne
そこ から また また シナ皮 剥ぐ て 今晩 TOP
hosipi kusu ne na sekor acapo hawean kor
帰る ため COP FP QUOT おじさん 言う て
それからまたシナ皮を剥いで、今晩は帰るつもりだよとおじさんが言って

(37)*mata hiru kara* nipes poronno ku=kar
また昼から シナ皮 たくさん 1SG.A=採る
また昼からシナ皮をたくさん採った

(38)kani *un yokatta no ka tottemo* pirka nipes patek ku=nukar pe
1SG.PRON 運良かったのかとっても 良い シナ皮 ばかり 1SG.A=見る NMLZ
ne kusu poronno se korka *omotai gurai mo torimasita*
COP から たくさん 背負う けれど 重たいぐらいも採りました
私は運が良かったのか、とても良いシナ皮ばかり目にするものだから、たくさん（採って）背負ったけれど、重たいぐらいもシナ皮を採った

(39)“*moo* onuman ne an kusu hosipi=an ro” sekor acapo hawean wa
もう 夕方 に なる から 帰る=1PL.S.INCL FP QUOT おじさん 言う て
「もう夕方になったから帰ろう」とおじさんが言って

(40)apekes poronno an *yatu* opitta ota ka.. cakke[13] wa *keyasite*
燃えさし たくさん ある/いる やつ すべて 砂 # 開く(?) て 消やして

[13] 「cakke」はテキスト1（52）の例のとおり、鵡川方言で「開く」という意味の動詞として用いられる語である。火を消すために砂をかけることを「cakke」というかは不明である。本稿査読者から「これは燃えさしの炭が複数集まっているのをばらけさせてから火を消したという、意味かと想像した」というご指摘をいただいた。今後、類例を確認して検討を続けたい。なお、筆者による吉村氏への調査においては、消火などで砂をかけることを「ota kamure（〜に砂をかぶせる）」と表現することがあった。

*sosite nimotu syotte usuguraku narigake ni yama kara sagatte* cise or un hosipi kusu
そして荷物背負って薄暗くなりがけに山から下がって　家　ところ　へ　帰る　ため
*yama kara sagatte kitara usiro kara*
山から下がってきたら後ろから
薪の燃えさしがたくさんあるのをすべて砂で消して、そして、家に帰るために荷物を背負って、薄暗くなりがけに山から下りてきたら背後から

(41)"*tyotto mate kora!*" sekor hawean kur an wa nukar akusu *yamanusi*
ちょっと待てこら　QUOT　言う　人　いる/ある　て　見る　と　山主
ne a an pe ne na
COP PERF ある/いる NMLZ COP FP
「ちょっと待てこら！」と言う人がいて、見ると山主（山の所有者）だったのだ

(42)"*omaedaci*, *hito no yama sa kite sono katteni sono hitono ki taosutte*, *ne?* *atarimae ka?*"
お前だち　人の山さ来てその勝手にその人の木倒すって　ね　当たり前か
sekor aen.. aye.. ye kor coka utar koyki kor an
QUOT # # 言う　て　1PL.PRON　たち　怒りつける　て　いる/ある
「お前たち、人の山に来て勝手に人の木を倒すのが当たり前なのか？」と言って、私たちを怒りつけている

(43)yakka *sekkaku* kar nipes *kureru ka to omottakke* opitta *nata tomo ni*
でも　せっかく　採る　シナ皮　くれるかと思ってたっけ　すべて　鉈ともに
*torarete simai masita*
取られてしまいました
でもせっかく採ったシナ皮なので、（山主が）くれるかと思っていたら、鉈とともにすべて取られてしまった

(44)*honto ni naite mo tarinai kurai kuyasii nagara* kani *uti kitara*
ほんとに泣いてもたりないくらい悔しいながら　1SG.PRON　うち来たら
本当に泣いても泣きたりないくらい悔しく思いながら家に着いたら

(45)hapo *ni* numan anakne ene an
母　に　昨日　TOP　こう　ある/いる
母に昨日はこうだった（と話した）

(46)tanto anakne uk pe ka opitta a=koyki wa uk-*sarete* sekor
今日　TOP　取る　NMLZ　も　すべて　4.A=怒りつける　て　取る-されて　QUOT
ku=cis kor hapo *sa* iyonnuppa akusu
1SG.S=泣く　て　母　さ　訴える　と
今日は取ったものもみんな（山主に）怒りつけられて取り上げられてと、私が泣きながら母に訴えると

(47)hapo cis kor ku=tek-e ruyruypa wa
母　泣く　て　1.(A)=手-POSS　手を取る　て
母は泣きながら私の手を取って

(48)“*zibun tumannai bakari ni*, *omae bakari ni me ni awasete*, *nakasete*, *sikatanain da*,
自分つまんないばかりに お前ばかりに目に遭わせて 泣かせて 仕方ないんだ
*gaman se*, *gaman se*, *moo doo suru koto mo dekinain da kara gaman se*, *gaman se*”
我慢せ 我慢せ もうどうすることもできないんだから我慢せ 我慢せ
sekor hawean
QUOT 言う
「自分が甲斐性ないばかりに、お前にばかり辛い目に遭わせて泣かせてしまって、どうすることもできないんだから、我慢しなさい、我慢しなさい」と言った

(49)*dakedo*, *wasi mo naita kedo* hapo *mo naita mitai datta*
だけど わしも泣いたけど 母 も泣いたみたいだった
だけど、私も泣いたけど母も泣いたみたいだった

(50)oro wa *sibaraku* yomne wa cise or un arpa ka somo ki p..
そこ から しばらく 懲りる て 家 ところ へ 行く も NEG する NMLZ
*de nai* kim ta arpa ka somo ki p ne akusu
でない 山 に 行く も NEG する NMLZ COP と
それからしばらくは懲りて（家に行かない、じゃなくて）、山に行かないものだったが

(51)hempara ne yakka *hutatuki kurai tatte kana*, *unto*.. *yakuba kara yoozi aru kara koitte*
いつ COP でも ふた月くらいたってかな # 役場から用事あるから来いって
*ano*.. *tegami kiteru kara itte mite koitte* iyapo hawean wa
# 手紙来てるから行ってみてこいって 父 言う て
いつだったか[14]、2 か月くらい経ってだったかな、役場から用事があるから来なさいと手紙が来てるから行ってみてこいと父が言って

(52)kani *mitai na* makkaci[15] hemanta a=en=ye kusu kani k=arpa
1SG.PRON みたいな 少女 何 4.A=1SG.O=言う ため 1SG.PRON 1SG.S=行く
hawe ne sekor ku=yaynu kor k=arpa akusu
NMLZ COP QUOT 1SG.S=思う て 1SG.S=行く と
私みたいな少女が一体何を言われに行くのだと思いながら行くと

(53)apa cakke wa cise onnayke or un ahun akusu poronno *nata narabete*
戸 開く て 建物 中 ところ へ 入る と たくさん 鉈並べて
*genkan no toko ni narabete atte*
玄関のとこに並べてあって
戸が開いて（役場の）建物の中へ入ると、玄関のところにたくさんの鉈が並べてあって

(54)“*omae*, *hukko ka?*”
お前 ふっこか

---

[14] 「hempara ne yakka（hempara いつ、ne COP、yakka ても）」は「いつでも」と訳すことができるが、これでは文脈上いまひとつ意味がつかめない。暫定的に「いつだったか」と訳しておく。

[15] 鵡川方言周辺の沙流方言や千歳方言などでは「matkaci（女の子）」という語形で記述されているが（中川 1995、田村 1996、萱野 2002）、吉村氏の発話は基本的に[makkatɕi]であるため、「makkaci（女の子）」と表記している。

「お前、ふっこ（冬子）か？」

(55)“*hai*”

はい

「はい」

(56)“*kokoni omae no mioboe aru mon*, *nata nai ka?*” *tte iwarete mite mitara*

ここにお前の見覚えあるもん　鉈ないか　って言われて見てみたら

*sono sina hagi sita toki ni torareta nata ga atte ne*

そのシナ剥ぎしたときに取られた鉈があってね

「ここにお前の見覚えのある鉈はないか？」と言われて見てみたら、シナ皮を剥ぎに行ったときに（山主に）取られた鉈があってね

(57)“*kore watasi no da to omou kedo mo*” *tte yuttakke*

これ私のだと思うけども　ってゆったっけ

「これ、私の鉈だと思うけども」って言ったら

(58)“*sooka*, *moo owatta koto da kara sikatanai kedo mo*, *korekara mo mada yama sa nanka*

そうか　もう終わったことだから仕方ないけども　これからもまだ山さなんか

*ikunde nai*, *hito no yama sa nanka damatte iku mon de nai yo*, *ano*.. *doroboo ni*

行くんでない 人の山さなんか黙って行くもんでないよ　#　泥棒に

*narun da kara ne*, *ttara*, *sono nata yaru kara kaere*” *tte* *yakuba de soo yuwarete ne*

なるんだからね　ったら　その鉈やるから帰れって　役場でそうゆわれてね

「そうか、もう終わったことだから仕方ないけど、これからも人の山に黙っていくものではないよ、泥棒になるんだからね、その鉈は返すから帰りなさい」と役場で言われて

(59)*aa*, *nata bakari mo kaesarete yokatta wa*, *donna koto yutte okorarerun da be to omotte*

INTJ　鉈ばかりも返されて良かったわ　どんなことゆって怒られるんだべと思って

*sinnpai sii sii itta kedo mo*, *ii anbai ni nata dake de mo moratte uti ni motte kaetta*

心配しいしい行ったけども　いいあんばいに鉈だけでももらってうちに持って帰った

ああ、鉈だけでも返してもらえて良かったわ、どんなこと言われて怒られるのだろうかと思って心配しながら行ったけども、いいあんばいに鉈だけでも返してもらって、家に持って帰った

(60)*sitara*, “huun” *tte*, *ano*, *titioya mo hahaoya mo* “*huun*” *tte yutta dake de*

したら　INTJ　って　#　父親も母親も　INTJ　ってゆっただけで

*un*, *sore kara wa anmari sono yama sa wa ikanai kedo*, *demo*.. *demo ikanakereba*

#　それからはあんまりその山さは行かないけど　#　でも行かなければ

*sinakawa nakereba* itese *mo dekinai*, *kane miru koto dekinai*

シナ皮　なければ　茣蓙編み　もできない　金見ることできない

そしたら、父も母も「ふーん」って言っただけで、それからはあまりその山には行かないけど、でも行ってシナ皮を採らなければ茣蓙編みができず、お金が得られない

(61)*sono sinakawa wa nama de tiisaku saite*, *koo nawa ni natte ne*, *tyanto koo kui tateta*,

そのシナ皮は生で小さく裂いて　こう縄になってね　ちゃんとこう杭立てた

*hakatta mono ga atte sa*, *sore ni koo guruguru guruguru koo maite*
計ったものがあってさ　それにこうぐるぐるぐるぐるこう巻いて
*kono gurai no taba de ne*, *kono gurai no taba ni ne*, *sita yatu o nooka sa mottekeba*
このぐらいの束でね　このぐらいの束にね　したやつを農家さ持ってけば
*ureru no*, *nama de*, *sinakawa ne*
売れるの　生で　シナ皮ね
シナ皮は生で小さく裂いて縄になって、杭を立てた計ったものにぐるぐる巻いて束にしたものを農家に持っていけば、シナ皮は生で売れた[16]

(62)*nooka no hito wa ne*, *mukasi*, *kugitte yuu no nai kara*, *naya tateru toki ni*
農家の人はね　昔　釘ってゆうのないから　納屋建てるときに
*yosi de syo*, *dakara*, *ano* *waranawa de tukau yori mo sinakawa no hoo ga zyoobu da kara*
葦でしょ　だから　#　藁縄で使うよりもシナ皮のほうが丈夫だから
*katte kureru no sa*
買ってくれるのさ
昔は釘がなかったから、農家の人が納屋を建てるときには葦を使う。だから、藁縄よりもシナ皮（の縄）のほうが丈夫だから買ってくれるの

(63)*soo yuu koto mo attasi sa*, *dakara sonna koto de honto ni ironna kuroo sinagara de mo*
そうゆうこともあったしさ　だからそんなことでほんとにいろんな苦労しながらでも
*seekatu site*, *sore koso oya to naite mitari yorokonde mitari*, *sonna omoi site*
生活して　それこそ親と泣いてみたり喜んでみたり　そんな思いして
*yoku kore made ikite kita mon da to omoimasu*
よくこれまで生きてきたもんだと思います
そういうこともあって、本当にいろんな苦労をしながらでも生活して、親と泣いてみたり喜んでみたり、そんな思いをしてよくこれまで生きてきたものだと思う

### 3.1.2 テキスト2

採録日：2014 年 10 月 4 日
テキスト収録時間：18 分 23 秒

(1) nipes, kani　kim ta　k=arpa　wa　nipes　kep　wa　poronno
シナ皮 1SG.PRON　山　に　1SG.S=行く　て　シナ皮　剥ぐ　て　たくさん
ku=kar　wa　k=eyaykopuntek
1SG.A=採る　て　1SG.A=喜ぶ
私は山に行ってシナ皮を剥いで、たくさん採って喜んで

[16] 吉村氏によると、シナ皮剥ぎはシナノキに水気がある 6 月から 7 月いっぱいの季節に行っていたという。採ってきたシナ皮の量にもよるが、父親と母親でシナ皮を分け、父親は生のシナ皮をすぐに裂いてシナ縄を綯い、母親はシナ皮を煮たり水に浸けてから乾かし、細く裂いて ka（シナ糸）を縒っていたという。母親はシナ糸を使って莫蓙編みをし、吉村氏は父親が綯って束にしたシナ縄や母親が作った citarpe（莫蓙）を農家に売って生計の足しにしていたという（2014 年 9 月 20 日調査）。

(2) taan pe ku=se wa uni un arpa wa hapo or un nukar-e
この もの 1SG.A=背負う て 家 へ 行く て 母 ところ へ 見る-CAUS
yakun makanak hapo eyaykopuntek pe ne na sekor ku=yaynu kor
なら どう 母 喜ぶ NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=思う て
これを背負って家に行って母に見せたなら、どんなに母は喜ぶものだと思いながら

(3) k=eyaykopuntek kor ne nipes ku=se wa hosipi yakka
1SG.A=喜ぶ て その シナ皮 1SG.A=背負う て 帰る けど
私は嬉しくなって、そのシナ皮を背負って帰ったけれど

(4) *nan nin kurai itta na*, *yo nin kurai de itte da ne*, sinep, tup, rep, inep,
何人くらい行ったな 四人くらいで行ってだね 一つ 二つ 三つ 四つ
inep tura arpa wa acapo, sinep acapo an wa
四つ 一緒に 行く て おじさん 一つ おじさん いる/ある て
何人くらいで行ったかな、四人くらいで一緒に行って、おじさんが一人いて

(5) ne acapo *tayori ni* k=arpa, ku=kar
その おじさん 頼りに 1SG.S=行く 1SG.A=採る
そのおじさんを頼りに行って、シナ皮を採った

(6) makanak hapo eyaykopuntek pe ne na sekor ku=yaynu kor
どう 母 喜ぶ NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=思う て
k=eyaykopuntek kor ku=hosipi akusu
1SG.A=喜ぶ て 1SG.S=帰る と
どんなに母が喜ぶものだと思いながら私は喜んで帰ると

(7) etok-o *yamanusi* ek wa iruska wa “makanak iki kusu *hito no yama sa*
先-POSS 山主 来る て 怒る て どう する ため 人の山さ
*hairun da!*” sekor hawean
入るんだ QUOT 言う
その前に山主が来て怒って「どうして人の山に入るんだ！」と言った

(8) iyotta iruska kor ku=se nipes ka a=uk-*sareru*[17] nata ka
非常に 怒る て 1SG.A=背負う シナ皮 も 4.A=取る-される 鉈 も

[17] 能動・受動の態の変換は、アイヌ語と日本語で文法的な特徴が異なる。一般的な能動文を受動文に変換する場合、日本語は能動文の目的語を主語に昇格させ、動詞に受動の助動詞「-(r)are」を加えて受動文に変換する。一方、アイヌ語は、目的語から主語への昇格はなく、動詞を不定人称主語の語形にすることで受動に相当する表現を可能としている（中川 2024）。テキスト 2 の（8）では「a=uk（4.A=取る）」で不定人称主語による「取る」の受動表現が成立しているが、さらに日本語の動詞「する」に受動の助動詞が加わった「sareru」が付き、「a=uk-sareru（lit. 誰かが～を取る＋される）」というハイブリッドな受動表現となっている。吉村氏の談話においては、このような受動表現が散見される（テキスト 1 の（46）、テキスト 2 の（8）（23）（50）（58）に出現）。アイヌ語の受動表現は、主語が不定人称となって背景化される一方、目的語は能動文と変わらず目的語のままである。「a=uk」は「（私のシナ皮／鉈）を誰かが取る」となり、「『（私のシナ皮／鉈）を誰かが取る』（ということを私が）される」という表現で、行為の受け手の受動性をより明確にしている可能性もある。吉村氏のトランスリンガルな言語実践の記述は、今後の課題である。なお、本稿査読者から本形式の特異性にかんして説明するよう指摘を受けた。指摘に感謝し、本脚注を追記する。

a=uk-*sareru*
4.A=取る-される
非常に怒って、私が背負っていたシナ皮も（山主に）取られ、鉈も取られた

(9) ku=cis kor ku=hosipi wa ene an isoytak hapo eun ku=ye akusu
1SG.S=泣く て 1SG.S=帰る て こう ある/いる 話 母 に 1SG.A=話すと
私がなきながら帰って、こういった話を母に話すと

(10)hapo kani *ba daku yoo ni daite* “eani patek ne
母 1SG.PRON ば抱くように抱いて 2SG.PRON ばかり に
*muzukasii sigoto sasete kinodoku da*, *sikatanai*, *torareta mono wa sikatanai kedo mo*
難しい仕事させて気の毒だ 仕方ない 取られたものは仕方ないけども
*kega bakari mo sinaide kaette kitan dara yokatta*” *tte yutte*
怪我ばかりもしないで帰ってきたんだら良かったってゆって
母は、私を抱くように抱いて「お前ばかりに難しい仕事をさせて気の毒だ、取られたものは仕方ないけども、怪我しないで帰ってきたなら良かったと言って

(11)hapo *yorokonde*, *yorokondari naitari otagai ni dakiatte* *naki*.. *naitari sita koto*
母 喜んで 喜んだり泣いたりお互いに抱き合って # 泣いたりしたこと
*atta kedo mo*
あったけども
母が喜んだり泣いたり、お互いに抱き合って泣いたりしたことがあったけども

(12)*sore kara sibaraku ikuno o yamete*, *yasunde ita kedo*, *yahari* nipes *nakereba*
それからしばらく行くのをやめて 休んでいたけど やはり シナ皮 なければ
hapo *no sigoto ga nai mon desu kara*
母 の仕事がないもんですから
それからしばらく行くのをやめて休んでいたけど、やはりシナ皮がなければ母の仕事がないものだから

(13)suy aw ta an acapo ne ya unarpe utar “arpa kusu ne na,
また 隣 に いる/ある おじさん COP Q.FP おばさん たち 行く ため COP FP
eani ka arpa yakun hokure *sitaku sinasai*” sekor hawean wa suy arpa wa
2SG.PRON も 行く なら 早く 支度しなさい QUOT 言う て また 行く て
また隣のおじさんかおばさんたちが「（シナ皮を剥ぎに）行くから、お前も行くなら早く支度しなさい」と言うので、また行って

(14)“sine ancikar rewsi kusu ne na, *sono yooni sitaku site* paye=an ro”
一 晩 泊まる ため COP FP そのように支度して 行く=1PL.S.INCL FP
sekor hawean, acapo hawean wa
QUOT 言う おじさん 言う て
「一晩泊まるつもりだから、そのように支度して行きましょう」とおじさんが言って

(15)oro wa *yo nin kana*, *de*.. arpa p pe[18] ne a p
そこ から 四人かな # 行く NMLZ NMLZ COP PERF NMLZ
*a*.. *tuita hi wa iti-niti* nipes poronno kep
# 着いた日は一日 シナ皮 たくさん 剥ぐ
それから四人かな、行ったけど、着いた日は一日シナ皮をたくさん剥いだ

(16)pirka pir.. nipesni ku=nukar pe ne kusu k=eyaykopuntek wa
良い # シナノキ 1SG.A=見る NMLZ COP ので 1SG.A=喜ぶ て
nipes poronno kep
シナ皮 たくさん 剥ぐ
良いシナノキを目にするものだから、私は喜んでシナ皮をたくさん剥いだ

(17)*sitakke* onuman ne akusu acapo en=samake ta ek wa
したっけ 夕方 に と おじさん 1SG.O=そば に 来る て
"tane onuman ne an na, *akarui uti* ipe okere *sitai kara*
もう 夕方 に なる FP 明るいうち 食べる 終わる したいから
amam *sitaku* ki yan" sekor *iwarete*
ごはん 支度 する IMP.FP QUOT 言われて
そして、夕方になると、おじさんが私のそばに来て「もう夕方になるから、明るいうちに食べおえたいから、ごはんの支度をしなさい」と言われて

(18)nipes kep *yamete* utura unarpe utar tura amam, ohaw
シナ皮 剥ぐ やめて 一緒に おばさん たち 一緒に 米 おつゆ
ne ya kar wa *sore koso uti ni itara* sayo patek
COP Q.FP 作る て それこそうちにいたら 粥 ばかり
a=e p ne korka
4.A=食べる NMLZ COP けれど
シナ皮を剥ぐのをやめて、おばさんたちと一緒にお米のごはんだとか、おつゆだとか作って、それこそ家にいたらお粥ばかり食べるものだけど

(19)*konban* anakne amam mesi a.. a=e easkay pe ne na sekor
今晩 TOP 米 飯 # 4.A=食べる できる NMLZ COP FP QUOT
ku=yaykopuntek wa *issyokenmee* ipe etokoyki okere wa
1SG.S(?)=喜ぶ て 一生懸命 食事 用意する 終わる て
今晩はお米のごはんを食べることができるんだと喜んで、一生懸命、食事の用意をしおえて

(20)"*kuraku naru mae ni* ipe okere *sitai na*" sekor acapo hawean wa
暗くなる前に 食べる 終わる したいな QUOT おじさん 言う て
「暗くなる前に食べおえたいな」とおじさんが言って

[18] 形式名詞「pe～p」は、子音で終わる語に後続する際は「pe」、母音で終わる語に後続する際は「p」となるため、動詞「arpa（行く）」に後続して名詞句を形成する際には「arpa p（arpa 行く、p NMLZ）」でよいと考えられるが、ここでは「arpa p pe（arpa 行く、p NMLZ、pe NMLZ）」と形式名詞が重複して現れている。偶発的な言い誤りであるのか、あるいは吉村氏のアイヌ語の特徴であるのかについては今後も検討を続ける。

(21)ne amam ka ohaw ka a=kar wa
その 米 も おつゆ も 4.A=作る て
そのお米のごはんもおつゆも作って

(22)yakka *moo botubotu* sirkunne wa ape ari, poro ape ari okari *minna*
でも もうぼつぼつ 暗くなる て 火 焚く 大きく 火 焚く 周り みんな
mono a wa
静かに 座る て
でももうぼちぼち暗くなってきて、大きな火を焚いて、その周りにみんなが座って

(23)aep ne ya ohaw ne ya mesi ne ya eymek-*sarete*
食べ物 COP Q.FP おつゆ COP Q.FP 飯 COP Q.FP 配る-されて
k=eyaykopuntek aa, mesi a=e easkay
1SG.A=喜ぶ INTJ 飯 4.A=食べる できる
食べるものとか、おつゆだとか、お米のごはんだとか、配られて私は喜んで、あぁ、お米のごはんが食べられる

(24)*mainiti de mo ii*, *konna mesi kuitai na*, *soo omoi nagara* ipe kusu ne akusu
毎日でもいい こんな飯食いたいな そう思いながら 食べる ため COP と
毎日でも良い、こんなごはんが食べたいなと思いながら食べようとすると

(25)hemanta cikap ape okari *takai toko kara* ape okari *ni kai ka san kai kurai* cis kor
何 鳥 火 周り 高いとこから 火 周り 二回か三回くらい なく て
*mawatte* oyak un ne cikap arpa wa isam akusu
回って よそ へ その 鳥 行く て いない と
何の鳥か、火の周りを高いところ二、三回くらい鳴きながら回って、その鳥がよそへ行ってしまうと

(26)*sugu* hemanta kikir ne ka *moo* sirkunne wa apto ruy siri neno
すぐ 何 虫 COP か もう 暗くなる て 雨 激しい VIS.EV 同じく
rapapse
落ちる
すぐに何の虫かが、もう暗くなるなかで雨が激しく降るようにばらばらと落ちてきた

(27)*ki no happa sa made otiru no ni ame hutta mitai na oto tateru*.., *nagara nani ka musi*
木の葉っぱさまで落ちるのに雨降ったみたいな音立てる ながら何か虫
kikir ape okari poronno rapapse
虫 火 周り たくさん 落ちる
木の葉っぱにまで落ちるのに、雨が降ったみたいな音を立てながら、何の虫かが火の周りにたくさんばらばらと落ちてきた

(28)makanak iki siri ne sekor ku=yaynu ka acapo utar ka unarpe
どう する VIS.EV COP QUOT 1SG.S=思う も おじさん たち も おばさん
utar ka “iyohay!” sekor hawean kor
たち も INTJ QUOT 言う て
どうしたことだと思っても、おじさんたちも、おばさんたちも「おやまあ！」と驚きの

声をあげながら

(29)ne a=kar pe ka oypepi *yara* su oro ka oma wa a=e ka
その 4.A=作る NMLZ も 茶碗 やら 鍋 中 も 入る て 4.A=食べる も
eaykap
できない
その私たちが作ったものも、茶碗やら鍋の中にも（虫が）入ってしまい、食べることもできない

(30)*baka kusai na*, *sekkaku danoni* sekor ku=yaynu kor somo e no
ばかくさいな せっかくだのに QUOT 1SG.S=思う て NEG 食べる て
hi ta oke.. *yameta toki wa moo marukkiri* sirkunne
とき に # やめたときはもうまるっきり 暗くなる
ばかくさいな、せっかくの食事なのにと思いながら食べないで、食べるのをやめたときにはもうすっかり暗くなっていた

(31)oro wa *tyoppiri go hun ka zyup pun kurai* unarpe *ato dano* acapo *dano*
そこ から ちょっぴり 5 分か 10 分くらい おばさん あと[19] だの おじさん だの
*iroirona* isoytak kor an yakka
いろいろな 話す て いる/ある ても
それから 5 分か 10 分くらい、おばさんたちやおじさんがいろいろしゃべっていたけど

(32)kani anakne pon makkaci ne kusu kani anakne *nani* itak
1SG.PRON TOP 小さい 女の子 COP から 1SG.PRON TOP なに 話す
*sureba ii mono ka mo wakannai kara*
すれば良いものかもわからないから
私は小さい女の子だったので、何を話せばいいのかもわからないから

(33)unarpe utar itak hawe patek ku=nu kor k=an,
おばさん たち 話す NMLZ ばかり 1SG.A=聞く て 1SG.S=いる/ある
an akusu
いる/ある と
おばさんたちが話す話ばかり聞いていると

(34)acapo “tane *moo* onuman *nannimo dekinai kara* nisatta suy ekimne
おじさん 今 もう 夕方 なんにもできないから 明日 また 山へ
apkas *sinai ba nai kara* ecioka anakne hokke yan
歩く しないばないから 2PL.PRON TOP 寝る IMP.FP
おじさんが「もう夕方でなんにもできないから、明日また山歩きしなければならないから、お前たちは寝なさい

[19] 小野・奥田（1999 : 159-160）は、アイヌ語の話者の日本語における語彙面にみられる母語の影響の一例として接尾辞の「アタ（方）」の多用をあげ、「アタはガタ（方）からの音変化によって成立したものであろう。もともとは経緯が含まれていたと思われるが（中略）敬称ではなくて単に複数を示す接尾辞とみるべきであろう」と述べている（中略は筆者による）。吉村氏の「あと」もこれにあたり（テキスト 2 の（31）（61）に出現）、主に人間を指す名詞に接尾し、近似複数を表すのに多用される。

(35)nisatta suy sinki kusu ne na hokke yan, kani anakne
明日 また 疲れる から COP FP 寝る IMP.FP 1SG.PRON TOP
ecioka epunkine kusu ape ari wa somo mokor no *banpe suru kara*
2PL.PRON 守る ため 火 焚く て NEG 眠る て ばんぺ（番兵）するから
hokke yan" sekor hawean
寝る IMP.FP QUOT 言う
明日はまた疲れるから寝なさい、私はお前たちの番をするために火を焚いて眠らないで見張っておくから寝なさい」と言った

(36)akusu unarpe utar anakne *katamatte* nep ka isoytak kor an
すると おばさん たち TOP かたまって 何 か 話す て いる/ある
yakka kani anakne makkaci, pon makkaci ne kusu
ても 1SG.PRON TOP 女の子 小さい 女の子 COP から
するとおばさんたちはかたまって何か話しているけど、私は小さい女の子だったので

(37)*tyoppiri hanarete nerette yuwareru mon da kara*, *neta kara* *moo* makkaci ne kusu
ちょっぴり離れて寝れってゆわれるもんだから 寝たから もう 女の子 COP から
unarpe utar hemanta ye kor an ka k=erampewtek kor
おばさん たち 何 話す て いる/ある か 1SG.A=わからない て
ku=hokke akusu nani ku=mokor
1SG.S=寝る と すぐ 1SG.S=眠る
少し離れて寝なさいと言われるものだから、そうして横になって、私は女の子だからおばさんたちが何を話しているのかわからないまま横になっていると、すぐに眠った

(38)ku=sinki ka an pe ne kusu nani ku=mokor
1SG.S=疲れる も いる/ある NMLZ COP から すぐ 1SG.S=眠る
疲れてもいるものだからすぐに眠った

(39)sirpeker akusu hopuni wa ipe etokoyki yan, tanukuran,
明るくなる と 起きる て 食事 用意をする IMP.FP 今晩
*yuube ka*, *yuube wa* ipe ka somo ki no hokke=an pe ne na
昨夜か 昨夜は 食べる も NEG する て 寝る=1PL.S.INCL NMLZ COP FP
iperusuy kusu hokure *ano*.. suke yan" sekor acapo hawean wa
空腹だ から 早く # 炊事する IMP.FP QUOT おじさん 言う て
明るくなって起きて食事の用意をして、「昨夜は食べないで寝たもんだから空腹なので、早く炊事をしなさい」とおじさんが言って

(40)unarpe utar suy amam, ohaw ne ya kar wa ne aep
おばさん たち また ごはん おつゆ COP Q.FP 作る て その 食べ物
*hazimete hara ippai naru hodo* e
はじめて腹いっぱいなるほど 食べる
おばさんたちがまたごはんだかおつゆだかを作って、はじめて腹いっぱいになるほど食べた

(41)*ohiru nante nain da karayotte yuwarete*, *hara ippai tabete oisikatta keredo mo*,
お昼なんてないんだからよってゆわれて 腹いっぱい食べておいしかったけれども
*sono yuube no* amam ikaraski sekor yaynu yakka *musi* oma wa
その昨夜の ごはん もったいない QUOT 思う ても 虫 入る て
an pe ne kusu opitta osura
いる/ある NMLZ COP から すべて 捨てる
お昼ご飯なんてないからねといわれて、腹いっぱい食べておいしかったけども、昨夜のごはんはもったいないと思っても虫が入っているものだからすべて捨てた

(42)*sono hi wa* pirka nipes *minna meemee ni yama sa haitte simatte* kani sinenne
その日は 良い シナ皮 みんなめいめいに山さ入ってしまって 1SG.PRON 一人で
ne *betuna toko sa ittakke* pirka pewre nipes poronno nipesni as.. an..
COP(?) 別なとこさ行ったっけ 良い 若い シナ皮 たくさん シナノキ # #
nukar wa k=eyaykopuntek wa
見る て 1SG.A=喜ぶ て
その日はみんなめいめいに山には行ってしまって、私は一人で別のところに行ったら、良いシナ皮、若いシナ皮のシナノキをたくさんみつけて嬉しくなって

(43)ne nipes poronno *honto ni* arikiki *site* poronno ku=kar wa
その シナ皮 たくさん ほんとに 精を出す して たくさん 1SG.A=採る て
akusu *moo ohiru datte yuwaretatte* aep ka *moo* isam
すると もうお昼だってゆわれたって 食べ物 も もう ない
そのシナ皮を本当に精を出してたくさん採ると、もうお昼だっていわれても食べるものももうない

(44)*moo sukosi* *ano*.. tere yan, yakun *ano uti*.. uni un hosipi kusu ne na
もう少し # 待つ IMP.FP なら # # 家 へ 帰る から COP FP
sekor acapo hawean wa
QUOT おじさん 言う て
もう少し待ちなさい、そうすれば家に帰るからとおじさんが言って

(45)*issyokenmee* nipes ku=kar wa ku=se ka eaykap *kurai*
一生懸命 シナ皮 1SG.A=採る て 1SG.A=背負う も できない くらい
poronno ku=se
たくさん 1SG.A=背負う
一生懸命にシナ皮を採って、私は背負うこともできないくらいたくさん背負った

(46)onuman ne an kusu ta.. cise or un hosipi kusu ne na sekor
夕方 に なる から # 家 ところ へ 帰る から COP FP QUOT
acapo hawean wa *nimotu* ku=se wa ne acapo *itiban* *ano*..
おじさん 言う て 荷物 1SG.A=背負う て その おじさん 一番 #
*ketu kara tuite onna no hito*, *saki ni natte* hosipi akusu
ケツからついて女の人 先になって 帰る と
夕方になったから家に帰るぞとおじさんが言って、私は荷物を背負って、そのおじさん

が一番後ろについて、女の人が先になって帰ると

(47)ekuskonna *doko kara ka* hemanta sisam ek wa
突然 どこからか 憎らしい 和人 来る て
突然、どこからか憎らしい和人が来て

(48)“*omae tati dare ni kotowatte yama sa haitta*, *hito no yama sa damatte doroboo ni hairu no ka*,
お前たち誰に断って山さ入った 人の山さ黙って泥棒に入るのか
*syotta mono oke*” *tte*
背負ったもの置けって

(49)ku=cis noyne ku=yaynu korka unarpe ka acapo ka *minna*
1SG.S=泣く ように 1SG.S=思う けれど おばさん も おじさん も みんな
*ayamatte mo kikanai*
謝ってもきかない
私は泣きそうに思ったけど、おばさんもおじさんもみんな謝ったが（山主は）きかない

(50)nipes *yara nata yara* opitta ko-uk-*sarete* ku=cis kor cise or un
シナ皮 やら鉈やら すべて APPL-奪う-されて 1SG.S=泣くて 家 ところ へ
hosipi akusu
帰る と
シナ皮やら鉈やらをすべて山主に奪われて、私は泣きながら家に帰ると

(51)ta.. tane ukuran anakne nea tanto anakne *koo koode nanno tame ni yama sa*
# 今 昨晩 TOP その 今日 TOP こうこうで何のために山さ
*itta ka wakannai*
行ったかわかんない
昨晩は、今日はこうでこうで何のために山へ行ったかわかんない

(52)“hapo *matte itabe?* *gomen ne*” sekor ku=hawean kor
母 待っていたべ ごめんね QUOT 1SG.S=言う と
「お母さん、待ってたべ？ごめんね」と私が言うと

(53)*sitakke* hapo ku=tek-e ku=kisma[20] *kata osaete naite*
したっけ 母 1.(A)=手-POSS 1SG.A=握る 肩おさえて泣いて
そしたら、母が私の手を握って、肩をおさえて泣いて

(54)“*omae ni sonna koto sasete* inunukaski korka makanak kar yakka
お前にそんなことさせて 気の毒だ けれど どう やる ても
k=erampewtek *yurusite kure yo*, *yurusite kure yo*”
1SG.A=わからない 許してくれよ 許してくれよ
「お前にそんなことさせて、気の毒だけれどどうすればいいかわからない、許してくれよ、許してくれよ」

[20] 文脈上、「私の手を私が握る」ではなく「母が私の手を握る」であることから、おそらく「ø=kisma (3SG.A=握る)」の言い誤りと考えられる（「ø」は 3 人称のゼロ形式の人称接辞を表す）。

(55)kani akkari hapo *no hoo ga* cis kor *wasi ba* kisma wa
1SG.PRON より 母 のほうが 泣く て わしば 抱く て
私より母のほうが泣きながら、私を抱いて

(56)*kondo*, *yama sa nanka mo iku koto nanka nai wa to omotte ita*, hapo *mo sikatanai*,
こんど 山さなんかも行くことなんかないわと思っていた 母 も仕方ない
*dakedo watasi ga sore sinakattara* hapo *no sigoto ga nai* hapo *no sigoto o*
だけど私がそれしなかったら 母 の仕事がない 母 の仕事を
*tukutte yaranaiba*, *seekatu dekinai*, *soo omotte* ku=cis kor k=an akusu
作ってやらないば 生活できない そう思って 1SG.S=泣く て 1SG.S=いる/ある と
山になんかもう行くことなんかないと思って、母も仕方がないといっている、だけど、私がそれをしなかったら、母の仕事がない、母の仕事を作ってやらなければ生活できない、そう思って私は泣いていると

(57)*sibaraku site kara* na kim ta arpa wa nipes kep kar.. ya..
しばらくしてから まだ 山 に 行く て シナ皮 剥ぐ # #
kar=an ro sekor *tonari no* acapo *ato*.. acapo hawean
採る=1PL.S.INCL(?) FP QUOT 隣の おじさん # おじさん 言う
kor ek wa
て 来る て
しばらくしてから、また山に行ってシナ皮を剥ぎに、採りにいこうと、隣のおじさんが言いながら来たので

(58)hapo ka suy a=ko-iruska-*sareru*, iyohay, *iiya*, *nankai mo nankai mo*
母 も また 4.A=APPL-憎む-される おやまあ いいや 何回も何回も
*sonna koto nai to omou kara*, *iku be*, *ii kara* sekor *yuwarete*
そんなことないと思うから 行くべ いいから QUOT ゆわれて
母もまた憎まれる、おやまあ、いいや、何回も何回もそんなことないと思うから、いいから行こうと言われて

(59)*yada na to omotta kedo mo seekatu no tame dara sikatanai na*
やだなと思ったけども生活のためだら仕方ないな
いやだなと思ったけども、生活のためなら仕方がない

(60)*sore nakereba mesi kuenain da mono to omotte*, *honto ni kokoro no naka de*
それなければ飯食えないんだものと思って ほんとに心の中で
*hanbun naku yoo na omoi dake do mo*, *hahaoya mo kawaisoo de*
半分泣くような思いだけども、母親もかわいそうで
それがなければ、飯を食えないんだものと思って、本当に心の中では半分泣くような思いだったけども、母もかわいそうで

(61)*de ano*.. *tonari no* acapo *ato* acapo *yara* unarpe utar
で # 隣の おじさん あと おじさん やら おばさん たち
turano ku=kar, nipes kep kusu arpa
一緒に 1SG.A=採る シナ皮 剥ぐ ため 行く

それで、隣のおじさんやおばさんたちと一緒にシナ皮を剥ぎに行った

(62)*sono hi wa* rewsi somo ki no *iti niti* kuneywa arpa wa
その日は 泊まる NEG する て 一日 朝 行く て
onuman hosipi korka pirka nipes ku=nukar wa poronno
夕方 帰る けれど 良い シナ皮 1SG.A=見る て たくさん
ku=se wa k=arpa akusu
1SG.A=背負う て 1SG.S=行く と
その日は泊まらないで朝行って夕方帰ったけれど、良いシナ皮をみつけてたくさん背負って帰ると

(63)suy hapo “pirkano, eyamno e=ek iyayiraykere” sekor hawean kor
また 母 きちんと 気をつけて 2SG.S=来る ありがとう QUOT 言う て
また母は「ちゃんと、気をつけてお前が帰ってきてくれてありがたい」と言って

(64)*kokoro no naka de wa osoraku nakinagara wasi no te tottana to omotte*
心の中ではおそらく泣きながらわしの手取ったなと思って
*demo konkai no sigoto wa mi ni natte yokatta to omotte*
でも今回の仕事は身になって良かったと思って
心の中ではおそらく泣きながら私の手をとったと思って、でも今回の仕事は身になって良かったと思って

(65)*sono nata mo, sore kara sibaraku site kara yakuba kara nanika tegami kiteru kara*
その鉈も それからしばらくしてから役場から何か手紙きてるから
*ano*.. iyapo *ikenai*, *ora ikenai kara omae tyotto itte koitte* iyapo *ni*
# 父 行けない おら行けないからお前ちょっと行ってこいって 父 に
*iwarete yakuba itte mitara*, *iriguti ni yon tyoo ka go tyoo no nata*, *naraberarete atte*
言われて役場行ってみたら 入口に四丁か五丁の鉈 並べられてあって
その鉈もしばらくして役場から手紙が来て、おらは行けないから、お前ちょっと行って見てこいって父に言われて役場に行ってみたら、入口に四丁か五丁の鉈が並べてあって

(66)“*omae* *arai*.. *araida ka?*” *tte*
お前 # 新井田かって
「お前、新井田か？」と[21]

(67)“*hai*, *soo desu*”
はい そうです
「はい、そうです」

(68)“*kore mire*, *kono naka ni mioboe aru mono aru ka?*”
これ見れ この中に見覚えあるものあるか
「これを見なさい、この中に見覚えあるものあるか？」

(69)*mitara watasi no nata ga aru no sa*, *torareta nata ga aru no sa*,
見たら私の鉈があるのさ 取られた鉈があるのさ

[21] 新井田は吉村氏の旧姓である。

見ると山主に取られた私の鉈がある

(70)*nankagetu mo ato ni natte kara no koto danoni ne*,*mitara yappari wasi no nata atte*
何か月も後になってからのことだのにね　見たらやっぱりわしの鉈あって
*ato*.. *hoka no hito gata ni wa moo oyoso no kentoo tuiteru no ka dare mo ikanain da*
#　他の人がたにはもうおよその見当ついてるのか誰も行かないんだ
*watasi dake ga itte sa*
私だけが行ってさ
何か月も後になってからのことだけど、見たらやっぱり私の鉈があって、他の人たちはおよその見当がついているのか誰も役場に行かないで、私だけが行って

(71)*sosite*　"*omae hito no yama sa damatte haitte*, *hito no yama kizutukerun da kara*
そして　お前人の山さ黙って入って　人の山傷つけるんだから
*nata toraretan da be*, *omae*, *kore kara mo sonna koto sitara dame da yo*,
鉈取られたんだべ　お前　これからもそんなことしたらだめだよ
*kono nata yaru kara*, *kaesu kara motte kaerinasai*" *tte*　*yuware*.. *yuwarete*
この鉈やるから　返すから持って帰りなさいって　#　ゆわれて
そして「お前は人の山に黙って入って山を傷つけたから鉈を取られたんだろ、お前はこれからもそんなことしたらだめだよ、この鉈を返すから持って帰りなさい」と言われて

(72)*sono nata motte kaette kite* iyapo *ni kookoo da yotte ittakke*　"huun, sonno ne"
その鉈もって帰ってきて 父　にこうこうだよって言ったっけ　INTJ 本当 COP
*soo ii nagara* hapo *mo* "*sikatanai na*, *demo nata moratte yokatta na*,
そう言いながら 母　も　仕方ないな でも鉈もらってよかったな
*ie no zaisan da mono na*, *sore nai ba*, *nani ano*.. *senaka de syotte aruku*
家の財産だものな　それないば　なにあの　背中で背負って歩く
*siba tori ni aruku ni mo*, *nai ba komaru nata da no ni*, *yokatta*"
柴採りにあるくにも　ないば困る鉈だのに　良かった
その鉈をもって帰ってきて父にこうだったよと言うと「ふーん、そのとおりだ」と言いながら、母も「仕方ないな、でも鉈を返してもらってよかったな、家の財産だもの、柴を採りに歩くにもなければ困る鉈だから、良かった」

(73)*sono toki dake wa yorokonde kuremasita*, *sore dake*
そのときだけは喜んでくれました　それだけ
そのときだけは喜んでくれた、それだけだ

**略号一覧**

#：言い誤り、言い淀み、フィラー／-：形態素境界／=：人称接辞境界／1：一人称／2：二人称／4：四人称／A：他動詞主格／(A)：所有者属格／APPL：充当接頭辞／CAUS：使役／COP：コピュラ動詞／DESID：希求／FP：終助詞／IMP：命令／INCL：包括／INFR.EV：推測証拠性／INTJ：間投詞／NEG：否定／NMLZ：名詞化辞／O：目的格／PERF：完了／PL：複数／POSS：所属形／PRON：代名詞／Q：疑問／QUOT：引用／S：自動詞主格／SG：単数／TOP：主題化／VIS.EV：視覚証拠性

**付録**

本稿で示した「シナ皮剥ぎの思い出」のテキストの音声資料を以下のサイトで公開する[22]。

| | |
|---|---|
| 資　　料 | アイヌ語鵡川方言テキスト（3） |
| 内　　容 | シナ皮剥ぎの思い出 |
| アクセス | https://doi.org/10.5281/zenodo.18463620 |

**謝辞**

長年にわたり調査にご協力いただいた吉村冬子氏ならびにご家族の皆様に心から感謝申し上げます。また、本稿のテキスト 1 は、千葉大学大学院（当時）の遠藤志保氏にご同行いただき、調査に際して多くのご教示、ご協力を賜りました。ここにお名前を記し、感謝申し上げます。また、2 名の匿名査読者による的確なご助言にも感謝申し上げます。

**参考文献**

アイヌ文化振興・研究推進機構（編）（1998）『アイヌ語弁論大会報告書』札幌：アイヌ文化振興・研究推進機構.

石垣福雄（1983）『北海道方言辞典』札幌：北海道新聞社.

小野米一・奥田統己（1999）『北海道のことば』札幌：北海道新聞社.

萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典　増補版』東京：三省堂.

岸本宜久（2024）「アイヌ語鵡川方言テキスト（1）：火の玉を見て気を失った話」『北方言語研究』（14）251-270.

岸本宜久（2025）「アイヌ語鵡川方言テキスト（2）：犬の思い出」『北方言語研究』（15）301-321.

田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』東京：草風館.

中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館.

中川裕（2024）『アイヌ語広文典』東京：白水社.

服部四郎（編）（1964）『アイヌ語方言辞典』東京：岩波書店.

[22] オープンアクセスの研究データリポジトリである Zenodo（https://zenodo.org/）を利用する。

# Ainu Texts in Mukawa Dialect (3): Memories of Stripping Linden Bark

Yoshihisa KISHIMOTO
(Sapporo Gakuin University)

This article presents two texts, narrated by Ms. Fuyuko Yoshimura, a speaker of the Mukawa dialect of Ainu, featuring childhood memories of going to the mountains with neighbors to collect linden bark. Text 1 was collected on September 20, 2014, and Text 2 on October 4, 2014. Although both texts recount the same memories, there are interesting differences between them in terms of scene description and expression in Ainu. Both texts are valuable resources for studying Ainu as a heritage language among generations of speakers whose first language is Japanese.

**Synopsis**

One day, I went to the mountains on an overnight trip with some neighboring grown-ups to strip linden bark, a material necessary for weaving traditional mats. We collected a large amount of bark, and when we were about to have supper in the mountains, a bird circled over the campfire before flying off somewhere. No sooner had I wondered at this strange sight than a downpour of insects came raining down from the sky, ruining all the supper we had prepared. The next day, as we were about to head down the mountain with the stripped bark on our backs, we were spotted by the landowner, who confiscated all the bark and our hatchets. After returning home having gone through such a miserable experience, I told my mother what had happened in the mountains. She held me in her arms and cried. Later, I was relieved that the hatchets were returned to us, at least, but when I was a child, I went through many hardships just to make a living.

（きしもと・よしひさ　kishi@sgu.ac.jp）